

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 2 年 12 月 17 日 (2020.12.17)

【公表番号】特表 2018-528824(P2018-528824A)

【公表日】平成 30 年 10 月 4 日 (2018.10.4)

【年通号数】公開・登録公報 2018-038

【出願番号】特願 2018-511035(P2018-511035)

【国際特許分類】

A 6 1 B 17/072 (2006.01)

A 6 1 B 17/064 (2006.01)

A 6 1 B 17/115 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/072

A 6 1 B 17/064

A 6 1 B 17/115

【誤訳訂正書】

【提出日】令和 2 年 11 月 6 日 (2020.11.6)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

手術用ステープラと共に使用するためのステープルカートリッジアセンブリであって、複数のステープル空洞を有するカートリッジ本体であって、各ステープル空洞は、内部に配置された手術用ステープルを有する、カートリッジ本体と、

前記カートリッジ本体に解放可能に保持され、かつ前記カートリッジ本体内の前記ステープルを配備することによって患者の胃組織に運搬されるように構成された、フィルム及び発泡体の少なくとも一方の形態にある生体適合性補助材料であって、前記補助材料は、前記胃組織において所望の反応を引き起こすのに有効な構造を有する、生体適合性補助材料と、

前記補助材料内部に配置された有効量の少なくとも 1 種の薬剤であって、前記少なくとも 1 種の薬剤は、前記胃組織において前記所望の反応を亢進させるのに有効である、有効量の少なくとも 1 種の薬剤と、を含む、アセンブリ。

【請求項 2】

前記補助材料は、前記胃組織の外面にステープル留めされるように構成され、前記所望の反応は、前記胃組織の前記外面から前記患者の胃内腔への前記補助材料の移動を含む、請求項 1 に記載のアセンブリ。

【請求項 3】

前記所望の反応は、前記ステープル留めされた胃組織のより速い治癒を含む、請求項 1 に記載のアセンブリ。

【請求項 4】

前記補助材料は、擦り剥く面を有するフィルムである、請求項 1 に記載のアセンブリ。

【請求項 5】

前記補助材料は、非生体吸収性である、請求項 1 に記載のアセンブリ。

【請求項 6】

手術用器具用のエンドエフェクタであって、

着脱可能に取り付けられたカートリッジ本体を有する第１のジョーであって、前記カートリッジ本体は、内部にステープルを設置するように構成されている複数のステープル空洞を、組織に面する表面に有する、第１のジョーと、

組織に面する表面上に形成された複数のステープル成形空洞を有するアンビルを有する第２のジョーであって、前記第１のジョー及び前記第２のジョーの少なくとも一方は、他方に対して移動可能である、第２のジョーと、

前記第１のジョー及び前記第２のジョーの前記組織に面する表面の少なくとも一方上に解放可能に保持され、かつ前記カートリッジ本体内の前記ステープルを配備することによって組織に運搬されるように構成された、フィルム及び発泡体の少なくとも一方の形態にある生体適合性補助材料であって、前記少なくとも補助材料は、前記胃組織において所望の反応を引き起こすのに有効な構造を有する、生体適合性補助材料と、

前記補助材料内部に配置された有効量の少なくとも１種の薬剤であって、前記少なくとも１種の薬剤は、前記胃組織において前記所望の反応を亢進させるのに有効である、有効量の少なくとも１種の薬剤と、を含む、エンドエフェクタ。

【請求項７】

前記補助材料は、前記胃組織の外面にステープル留めされるように構成され、前記所望の反応は、前記胃組織の前記外面から前記患者の胃内腔への前記補助材料の移動を含む、請求項６に記載のエンドエフェクタ。

【請求項８】

前記所望の反応は、前記ステープル留めされた胃組織のより速い治癒を含む、請求項６に記載のエンドエフェクタ。

【請求項９】

前記補助材料は、擦り剥く面を有するフィルムである、請求項６に記載のエンドエフェクタ。

【請求項１０】

前記補助材料は、非生体吸収性である、請求項６に記載のエンドエフェクタ。

【誤訳訂正２】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】０００９

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【０００９】

ステープルカートリッジアセンブリは、任意の数の変更例を有することができる。例えば、補助材料は、胃組織の外面にステープル留めされるように構成することができる。いくつかの態様では、補助材料は、擦り剥く面を有するフィルムとすることができる。補助材料は、非生体吸収性とすることができる。

【誤訳訂正３】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】００１４

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【００１４】

エンドエフェクタは、多くの方法で変更されてよい。例えば、補助材料は、胃組織の外面にステープル留めされるように構成することができる。所望の反応は、胃組織の外から患者の胃内腔への補助材料の移動を含むことができる。別の例では、所望の反応は、ステープル留めされた胃組織のより速い治癒を含むことができる。更に、補助材料は、擦り剥く面を有するフィルムとすることができる。いくつかの態様では、補助材料は、非生体吸収性であり得る。

【誤訳訂正４】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】 0 1 6 0

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【 0 1 6 0 】

別の態様では、補助材料は、胃壁に刺激応答を引き起こすように構成することができる。一実施では、補助材料は、炎症応答を誘発する能力があるテクスチャを備えた表面を有することができる。補助材料の組織に面する表面の少なくとも一部は、テクスチャ加工表面を含むことができる。テクスチャ加工表面は、擦り剥く用テクスチャ加工表面とすることができる。一態様では、補助材料は、フィルムの形態とすることができるか又は擦り剥く用テクスチャ加工表面を備えたフィルムを含むことができる。ステーブル留めされた補助材料は、胃組織壁を激しく擦り剥くように構成することができる。胃の本来の蠕動運動は、この効果を高めることができる。補助材料が擦り減るにつれて、補助材料は、上述のように、胃壁組織内への浸食を開始し、胃内腔へと移動し始める。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】 明細書

【訂正対象項目名】 0 1 6 2

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【 0 1 6 2 】

テクスチャ加工表面を備えた補助材料は、多数の変更例を有することができる。一実施では、補助材料の擦り減る表面は、例えば、粗い紙やすりに類似するマクロ外観などの不均一表面を含むことができる。このテクスチャ加工表面は、補助材料の表面の少なくとも一部上の任意のパターンとすることができる。テクスチャ加工表面は、マイクロニードルなどの反復性形状を備えた別個のパターンとすることができる。そのようなパターンの例については、その全体が参照により本明細書により組み込まれる 2013 年 2 月 8 日出願の米国特許出願公開第 2013/0146643 号、発明の名称「Adhesive Film Laminate」を参照されたい。補助材料の不均一表面は、紙やすりが使用されるときのように、補助材料が胃組織に対して移動した際に、浸食が生じるように構成されていてよい。